

企業名： ユーシン精機

---

レポート名： YUSHIN レポート 2021

---

## 1. この会社が目指す姿が理解できるか

YUSHIN 精機は 1973 年に創設され、創設直後は各種製造機の設計を行っていた。創設から 5 年後に初めて「プラスチック取出口ロボット」を世に出してからは産業ロボットの製造に力を入れ始めた。創業者の「できない、無理だ、は出発点」というスローガンのもと、業界の常識に縛られることなく、顧客の要望に応える形でロボット開発を行ってきた。YUSHIN レポート 2021（以下、報告書と呼ぶ）では、「労働安全性と生産性が高く、省エネルギーな工場の実現をサポートするために、これからも新しい技術に挑戦してまいります。」とあり、創設以来積み上げてきた実績と信頼を引き継ぎながら、需要に合わせた技術成長を目指していくことが掲げられていると言える。よって報告書からは YUSHIN 精機の目指す姿を十分に理解することができる。

また報告書には、将来的な経営のリスクとそれに対応する取り組みが書かれている。例えば外部要因のリスクとして、プラスチック射出成形産業の設備投資状況や競合他社による値下げ攻勢などが挙げられていて、それに対する取り組みとしては、他業種への販売展開による特定業界への依存度低減や、販売コストの削減が挙げられている。また内部要因のリスクについては、品質を原因とする保障費用の発生や、情報システムの不具合や漏洩などが挙げられていて、それに対する取り組みとしては、国際基準にも適合した高い品質管理体制の構築や、従業員への教育啓発を含めた情報セキュリティの強化を掲げている。このように将来的なリスクとその処方をも具体的に明示できるのも、企業が自社の将来像を明確にイメージできているからこそである。以上のことから YUSHIN 精機は自社の目指す姿を明確に定め、それを達成するためのビジョンも持っていると言える。

## 2. この会社の競争優位性が理解できるか

YUSHIN 精機は国内では後発のメーカーながら、自社の技術力を活かして急速なキャッチアップを見せ、グローバルな事業展開も功を奏し、2000 年代にはプラスチック成形品取出口ロボットの世界シェア No.1 になった。2002 年に開発したディスク取出口ロボット「DRDIII」は当時の世界最速の取出タイムを誇り、YUSHIN 精機は世界に通用する技術力を有していると言える。また省エネ商品の開発にも力を入れており、2019 年には平成 30 年度優秀省エネ機器・システム表彰において「日本機械工業連合会会長賞」を受賞するなど、省エネの技術も高い評価を受けている。高性能で省エネなロボットは自動車産業や医療分野で幅広く使用され、国内の主要産業にとってなくてはならないものになっている。また YUSHIN 精機は顧客からの信用度が高く、無借金経営と高い自己資本率で経営の安全性も高い。報告書

では YUSHIN 精機の技術力の高さと安定性が図や写真を用いてわかりやすく説明されており、高い競争優位性を持っていることがよく伝わってきた。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

地域別の売り上げを見ると、YUSHIN 精機は海外の売り上げが全体の 60%以上を占めており、アジア、欧米が主要なマーケットになっている。価格競争は激しさを増すが、確かな省エネ技術を持つ YUSHIN 精機のロボットは、世界的な環境対策による省エネ商品の需要増加を考慮するならば、これからも国際的なシェアを保持し続けると考えられる。

品種別の売り上げを見ると、主要製品である取出口ロボットの売上高が 64%を占めており、依存度が高いことがうかがえる。他業種への販売展開を推進していくためにも、取出口ロボット以外の開発と生産拡大が求められる。2020 年 6 月に荷積みロボットを開発しており、運送・食品業界への進出が期待される。

報告書からは世界市場において YUSHIN 精機の競争優位性が持続しそうであること、それから技術力が今後より幅広く利用されるかという観点に立てば、プラスチック業界への依存脱却を図る荷積みロボットの生産拡大が大きなカギとなりそうなことが分かった。

### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

YUSHIN 精機は職場環境の改善と適材適所な人材配置を推進するなど、社員一人一人を大切にす姿勢が伝わってくる。また報告書には社員の努力・チャレンジを奨励するために、「イノベーションプロジェクト活動提案制度」の導入を推進するとあり、創造性と主体性を育む人材育成システムが構築されつつある。YUSHIN 精機は主要製品である取出口ロボットの製造だけでなく、顧客の要望に合わせた技術開発も行ってきた歴史を持つ。私がおもし YUSHIN 精機に就職すれば、顧客の需要をリサーチして新たな技術開発の企画書を積極的に発案し、創造性と主体性を持った人材に成長できそうである。よって YUSHIN 精機には自身の人的資本の価値向上を達成できるような環境が備わっていると考えられる。

### 5. 報告書にはどのような改善余地があるか

YUSHIN 精機は海外での売り上げが全体の 6 割以上を占めており、グローバルな事業展開も YUSHIN 精機の競争優位性の一つと言える。しかし報告書には海外事業について、地域別の売上高や海外店舗の紹介にとどまり、事業そのものの具体的な説明や成功要因についての記載はほとんどなかった。YUSHIN 精機に興味がある人、もしくは実際に入社したいと考える人の中には海外事業に興味を持つ人もいると考えられ、そうした人たちのためにも、海外事業のより詳細な説明が求められる。実際に海外支部で働く人の体験談を載せるのが一つの方法としてある。また国内事業と海外事業の比較を行うことも両事業の違いを明確にし、海外事業のイメージをつかみやすくするので有効である。